と

●緑色は別名

信州 SHINSHU 草花木実

《目次》 1
ドイツスズラン 2
ドイツトウヒ 3
トウカエデ 4
トウガラシ 5
トウギボウシ 6
トウグミ 7
トウゴクサバノオ 8
トウゴクシソバタツナミ 9
トウゴクミツバツツジ 10
トウダイグサ 11
ドウダンツツジ 12
トウテイラン 13
トウバナ 14
トウヒ 15
トウモクレン 16
トウモロコシ 17
トガクシショウマ 18
トキソウ 19
トキワイカリソウ 20
トキワザクラ 21
トキワハゼ 22
トキワヒメハギ 23
トキワマンサク 24
トクサ 25
ドクゼリ 26
ドクダミ 27
ドクムギ 28
トケイソウ 29
トサミズキ 30
トチ 31
トチバニンジン 32
トベラ 33
トマト 34
トモエシオガマ 35
トモエソウ 36
巴錦 37
トラデスカンティア・シラモンタナ 38
ドラバ・アイゾデス 39
トリアシショウマ 40
トリトマ 41
トルコギキョウ 42
トレニア 43

【花期 4〜6月】

ドイツスズラン　　2005.5.20小布施

ドイツスズラン 独逸鈴蘭 〈キジカクシ科スズラン属〉

庭に植えたり、切花用に植栽する多年草。高さ15〜25cm。葉は2〜3個根生、スズランより厚めで、色が濃い、基部で互いに抱き合い仮茎をつくる。花は葉と同じ高さで咲く、花冠は浅い鐘形、長さ8mm位、直径に比べ高さが低い、下垂し、芳香が強い、葯も花粉も淡緑色。毒草。【18】【32】【58】【79】

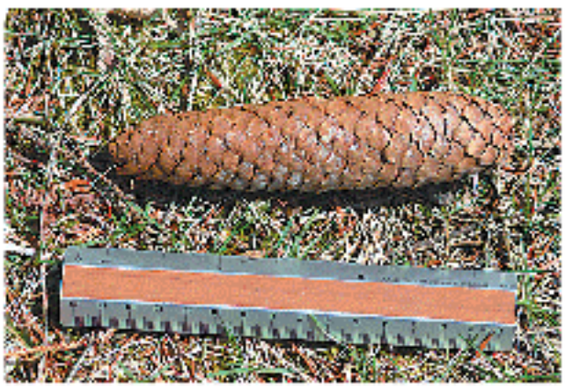
■名は、ドイツが世界的産地であることから。【18】
■スズランもドイツスズランも有毒で、家畜が食べないから、放牧地では取り残されて繁殖する。【32】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ドイツスズラン												

【花期 5〜6月】常緑高木

ドイツトウヒ　樹冠は鋭円錐形か広円錐形、老木になると枝が垂れる【37】　2004.4.8青木

葉　先は鋭尖【37】　2002.5.5霧ケ峰



果実　15cm定規　2004.4.8青木

樹皮　鱗片状剥離【37】　2003.7.3蓼科

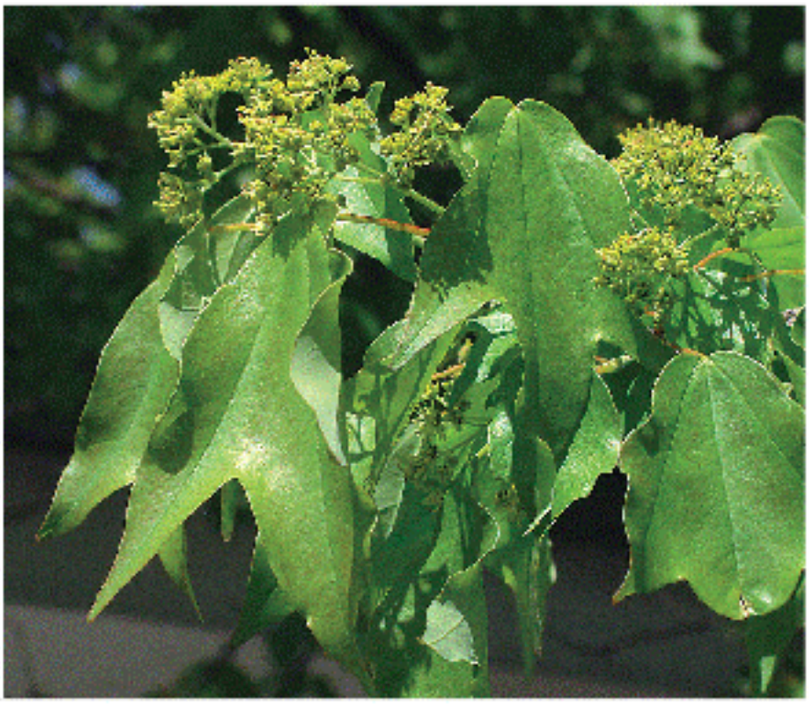
ドイツトウヒ 独逸唐檜　別名ヨーロッパトウヒ〈マツ科トウヒ属〉

ヨーロッパ原産。明治中期に渡来。幹は直立、高さ30〜40m。樹皮は暗褐色、老木になると赤褐色を帯びるか灰色になる、鱗片状に剥離。葉は少し湾曲、先は鋭く尖る、断面は平たい四角形。雌雄同株。雄花・雌花とも頂生。果実は球果、円筒形か楕円形、長さ10〜20cm、下垂、はじめ緑色、熟して鮮褐色。【4】【37】【49】

■自生地のドイツでは、大森林シュヴァルツヴァルトの主要樹種。【48】■シュバルツバルト＝《黒い森の意》ドイツ南西部の山地。シュワルツワルト。【5】

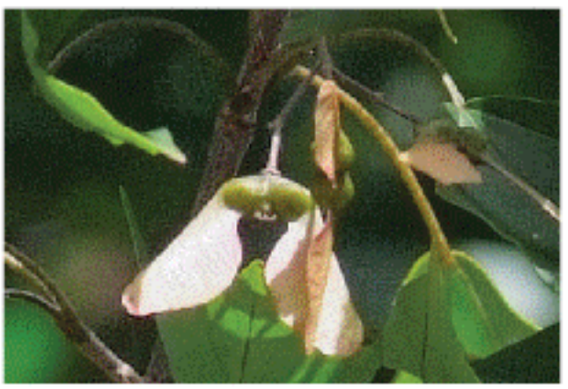
■鳩時計のおもりはドイツトウヒの球果をかたどったもの。【4】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ドイツトウヒ												



トウカエデ　雄花（左上）、両性花（左下）　2002.5.3善光寺／2002.4.29長野

紅葉　2002.11.11長野



果実　2022.10.11長野

紅葉　2002.11.27上田

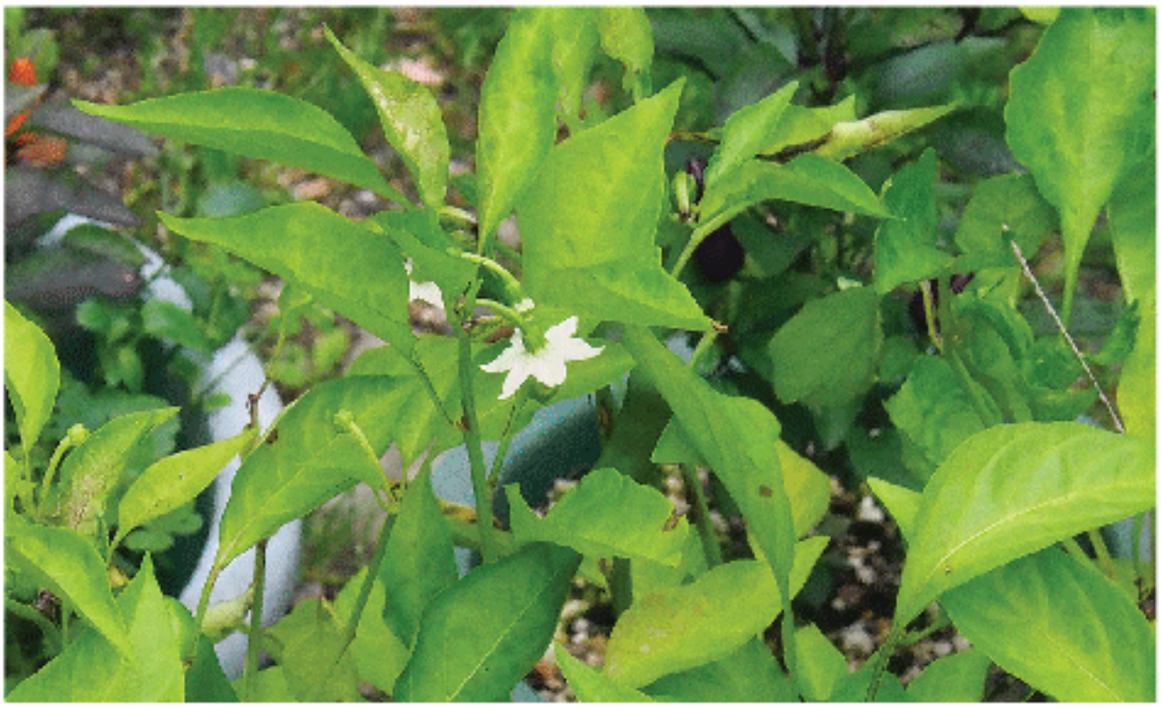
トウカエデ　唐楓〈カエデ科カエデ属〉

中国原産。享保年間に渡来。樹勢が強いので、街路樹や庭木として植栽される。高さ10〜20m。樹皮は灰褐色、初め平滑、老成すると鱗片状に縦に剥がれる。葉は有柄、対生、狭卵形、長さ4〜8cm、上部で3浅裂、裂片は3角形、表面光沢、ふちは全縁か粗い鋸歯。本年枝の先に散房花序を出し、淡黄色の雄花と両性花をつける。果実は翼果、長さ1.5〜2cm、鋭角に開く。【4】【18】【37】【48】

■名は、唐から入ったことによる。【18】■中国名は三角槭。槭＝カエデ。【25】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トウカエデ												

【花期 初夏〜秋】



トウガラシ　寒さに弱く、耐寒性はない【77】　2016.9.25塩尻

実　2016.9.25塩尻

実　2016..10.10中津川

トウガラシ 唐辛子〈ナス科トウガラシ属〉

熱帯アメリカ原産の多年草。温帯では一年草。コロンブスによってヨーロッパに伝えられ、我が国には16世紀に渡来。茎は多く分枝。高さ30〜100cm。葉は互生、長柄、葉身卵状披針形、全縁。花は葉腋に1個、下向き、花冠径12〜18mm、白色、皿状、5裂、雄しべ5個、葯は黄色。【18】【58】

■代表的な品種には鷹の爪（タカノツメ）や八房（ヤツブサ）、伏見甘長（フシミアマナガ）などがある。【58】

■果実の形は球形から細長いものまで様々。赤色や黄色、紫色などに熟す。【58】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トウガラシ					○	○	○	○				

【花期 7〜8月】

トウギボウシ　全体に大型【59】　2002.8.4戸隠

トウギボウシ　薹擬宝珠　別名オオバギボウシ〈ユリ科ギボウシ属〉

日本海側の山地に生える多年草。観賞用に庭によく植えられている。葉は卵形〜卵状楕円形〜楕円形、長さ30〜40cm、幅10〜15cm、先は鋭く尖る、基部は心形、裏面は粉白色を帯び、脈は隆起する。花茎を40〜100cm出し、白色または淡紫色の花を横向きに多数開く。【3】【59】【64】

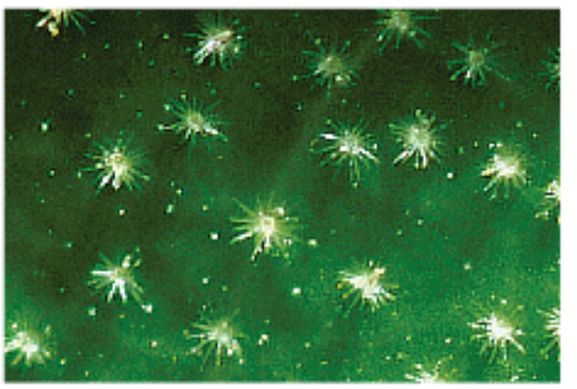
■トウギボウシは地理的変異が大きく、太平洋側に生育するものをオオバギボウシ、日本海側に生育するものをトウギボウシとしてきたが、両者は連続的なものであって、区別はないとする考えがある。【59】●丸みのある葉のオオバギボウシとは葉の形が異なる。

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トウギボウシ												

【花期 4〜6月】落葉小高木または低木

トウグミ　ナツグミの変種【5】　2007.5.15軽井沢町植物園

葉　2007.5.15軽井沢



若い葉の星状毛　2004.4.18上田

実　真っ赤に熟す【58】2001.7.13信濃

トウグミ　唐茱萸　別名ツクシグミ〈グミ科グミ属〉

山野に生え、よく分枝して、高さ4mになる、枝に刺はない。葉は互生、楕円形〜長楕円形、長さ4〜10cm、表面に鱗片はなく、若い時には星状毛がある、裏面には白色と褐色の鱗片がある。葉腋に淡黄色の花を下垂、萼筒の下部は子房のある位置で括れる、先は4裂。果実は液果、俵形、夏に真っ赤に熟し、やや渋味はあるが食べられる。【4】【18】【58】

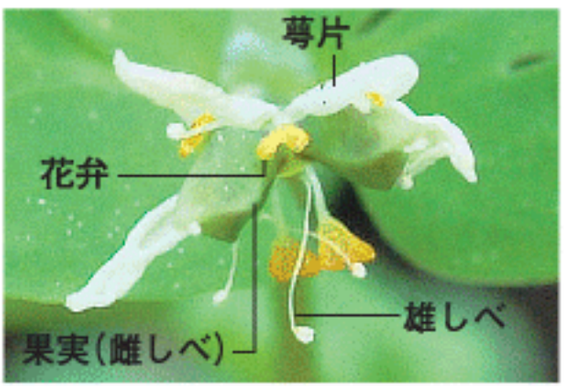
■名は、外国から渡来したと考えたため。【18】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トウグミ												

【花期 3〜5月】

トウゴクサバノオ　2011.6.3軽井沢・ストロボ使用

花　2009.5.14軽井沢



盛りを過ぎた花　2004.5.15

果実 袋果【18】　2004.5.15軽井沢

トウゴクサバノオ　東国鯖の尾〈キンポウゲ科シロカネソウ属〉

山中の湿った所に生える多年草。茎は高さ10cm内外、無毛。根生葉は3出または鳥足状5出複葉、頂小葉は広卵形〜広倒卵形、鈍鋸歯、側小葉は歪んだ卵形。茎葉は対生、3小葉。花柄長さ2cm位。花は淡黄色または黄緑色、横向き〜やや下向き、径5〜8mm、萼片5個は花弁状、花弁は黄色い蜜腺となる。【3】【18】【32】【42】

■名は、関東地方に生えるサバノオの意。サバノオは、両側に張り出した袋果の形をサバ(鯖)の尾に例えたもの。【3】【18】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トウゴクサバノオ			○									

【花期 5〜7月】

花　葉　葉柄は長さ1〜3cm【3】　2010.6.7軽井沢町植物園

トウゴクシソバタツナミ　2010.6.7軽井沢町植物園

トウゴクシソバタツナミ　東国紫蘇葉立浪〈シソ科タツナミソウ属〉

山地の木陰に生える多年草。茎には立った毛が多い。高さ5〜20cm。葉は卵形〜長卵形、長さ2〜7cm、やや厚く、開出毛が多い、表面は脈に添って白斑が入ることが多い、裏面は紫色を帯びる。花は唇形花。【3】【54】【63】

■福島県以西の本州に生えるホナガタツナミソウと全体がよく似ている。ホナガタツナミソウは茎の毛が下向きに生えるので区別できる。【3】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トウゴクシソバタツナミ			●	●								

【花期 5月】落葉低木

トウゴクミツバツツジ　　2004.5.2伊那・経ヶ岳植物園

花　　2004.5.2伊那

トウゴクミツバツツジ　東国三葉躑躅〈ツツジ科ツツジ属〉

山地に生え、高さ2～4m。葉は枝先に3個輪生、葉柄全体に毛。花は葉と同時かやや早く、1～3個、紅紫色。花冠広漏斗形、5裂、裂片平開、直径3～4cm、雄しべ10個、花糸無毛、花柱下半部に腺毛。[4][15][18]

■名は、関東地方に多いことによる。[18] ■ミツバツツジの名は3葉ずつ出るから。[4][18]
■サイコクミツバツツジは花糸と花柱無毛。[4]

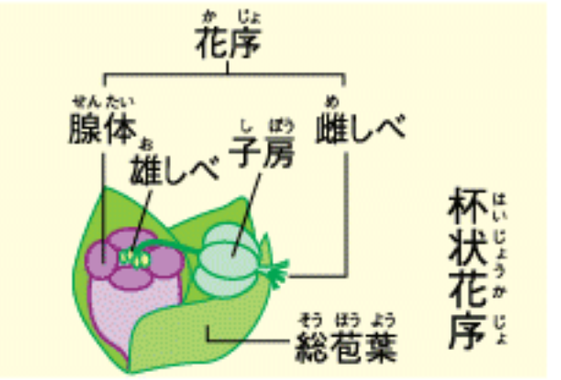
[4]の図版より作成

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トウゴクミツバツツジ			●									

【花期 3〜6月】

花　雄しべ、雌しべそれぞれが退化した1個の花といわれる【32】　2003.4.3長野

実　表面なめらか【32】2002.5.27長野



トウダイグサ　種子にアリを誘う物質があるという【10】　2007.4.12上田

トウダイグサ　燈台草〈トウダイグサ科トウダイグサ属〉

道端などに生える越年草。茎は根元で分枝、直立。高さ20〜40cm。葉は互生、篦形か卵円形、長さ1〜3cm、ふちに細かい鋸歯。茎頂で放射状に枝を分け、先に総苞葉と杯状花序がつく。花序のふちに腺体4個、楕円形、黄緑色、蜜を分泌、花序の中に雄しべ数個と雌しべ1個、時に2個がある。**有毒植物**。【3】【32】【42】

■名は、全草の形が、油の皿を置いた昔の燈火の台に似ていることによる。【10】
■トウダイグサの仲間は茎を切ると乳白色の汁を出す。この汁は有毒。特にナツトウダイは毒性が強い。【10】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トウダイグサ		●●●										

【花期 4〜5月】落葉低木

葉　2004.5.15軽井沢

紅葉　実　2014.11.10長野

ドウダンツツジ　2013.5.4小布施

ドウダンツツジ　灯台躑躅　〈ツツジ科ドウダンツツジ属〉

山地の主に蛇紋岩地帯に自生、生け垣や庭木として植栽される。高さ1〜6m。幹は直立、多数分枝、車輪状。葉は枝先に輪生状に互生、倒卵形、長さ2〜4cm、ふちに微細な鋸歯。葉と同時に枝先に壺形の花を散形状に下垂、長さ7〜8mm、花冠5浅裂、白色。雄しべ10個。花糸有毛。果実はさく果、上向き。【4】【18】【37】

■名は、分枝の形が結び灯台（燭台）の足に似ていることに由来。【18】■前説に対し、細見末雄氏は、花が昔の山人が腰に下げた布や皮の小袋・胴乱に似るからと解く。【25】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ドウダンツツジ		○	○	○								

【花期 8〜10月】

トウテイラン　　2015.9.5小諸

トウテイラン 洞庭藍 〈ゴマノハグサ科ルリトラノオ属〉

近畿、中国地方の日本海側に生える多年草。全草が白い毛で密に覆われる。茎は直立。高さ40〜50cm。茎葉は対生、披針形〜長楕円形、長さ5〜10cm、先はやや尖る、ふちに浅い鋸歯。茎の頂に穂のような総状花序をつける。開花は下から。花柄は短い。萼4深裂、花冠は青紫色、径7mm、下部は筒状、先端4裂、雄しべ2個、雌しべ1個。【18】【42】【58】【80】【84】

■名は、花色の藍色を中国の有名な洞庭湖のルリ色の水に例えた。【18】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トウテイラン							●					

【花期 4～8月】

トウバナ　花冠の上唇は、下唇より僅かに短い【32】　2014.6.15長野

トウバナ 塔花 〈シソ科トウバナ属〉

山野の道端や田の畦などに生える多年草。茎は根元から束生、基部は地面を這い、のちに斜めに立ち上がる。高さ10～30cm。葉は対生、卵形～広卵形、長さ1～3cm、幅0.8～2cm、ほとんど無毛。茎の先端に2～4cmの花穂を立て、短い柄をつけた唇形花を数段、輪状につける、萼は長さ3～4mm、ごく短い毛がある、花冠は長さ5～6mm、かすかに淡紅色を帯びる。【3】【18】【32】【42】【58】

■名は、花穂の形による。【18】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トウバナ				●								

【花期 5～6月】常緑高木

枝　2004.8.20白駒池

樹皮　2004.8.20白駒池

葉表　表面は濃緑色【37】　2004.8.20

葉裏　葉枕は斜上【15】　2004.8.20

トウヒ　唐檜　別名トラノオモミ〈マツ科トウヒ属〉

深山に生え、高さ20～25m。樹冠は広い円錐形。樹皮は赤味を帯びた暗褐色、鱗状に剥げる。葉は密生、線形、長さ0.7～1.5cm、やや湾曲、先は尖る、裏面に2条の気孔線、灰白色。雌雄同株。雄花は円錐形、小枝に下垂、雌花も円錐形、小枝の端に斜上。果実は球果、長楕円形、長さ3～6cm、熟して黄褐色。【4】【5】【18】【37】

- 名は、唐風のヒノキ(檜)と見立てたから。【18】
- 信州では、北部に少なく、南部に多い。【15】
- ドイツトウヒは、老木になると枝が垂れ下がる。球果は長さ10～20cm。【4】

花 撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トウヒ												

【花期 3～5月】落葉低木

トウモクレン　モクレン（シモクレン）の変種【58】　2002.4.18長野

トウモクレン 唐木蓮・唐木蘭 別名ヒメモクレン〈モクレン科モクレン属〉

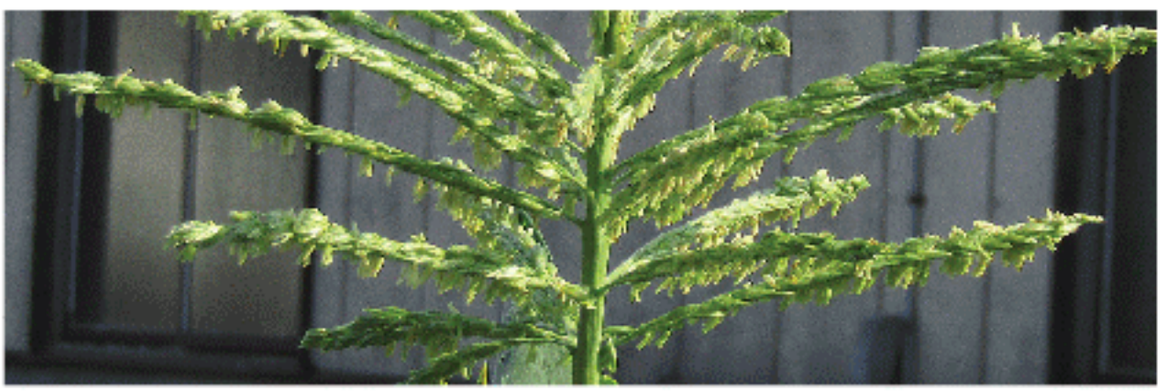
中国原産。観賞用として庭に植栽されている。主幹はなく束生する、よく伸長して細い。高さ2～3m。葉は互生、倒卵形～狭い倒卵形、長さ8～13cm、基部は楔状、質は薄い。葉と同時に枝先に芳香のある花をつける。花は上向き、半開、萼片3個、狭い披針形、花弁6個、濃い赤紫色、先はやや尖る、内側は白っぽい、雄しべ多数。【4】【18】【37】【58】

■芳香はほとんどありません。【58】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トウモクラン		●	●●●●									

【花期 夏～秋】

トウモロコシ　葉の下部は鞘となって茎を包む【18】　2017.7.6千曲



雄花穂　1小穂は2花でキビ亜科の特徴をもつ【157】　2017.7.6千曲

トウモロコシ 玉蜀黍 〈イネ科トウモロコシ属〉

アメリカ熱帯地方原産の一年草。日本へは大正の初めに渡来。現在食料に広く栽培される。茎は単一、直立。高さ1～3m。葉は互生、細長い、長さ1mに及ぶ。雌雄異花同株。雄花穂は茎頂につく、円錐状、雌花穂は中程の葉の葉腋につく、花柱は髭状、花穂の先から垂れ下がる。世界三大穀物の1つ。【5】【18】【58】【157】

■名は、唐唐黍で、トウモロコシキビの略。【18】
■南アメリカのアンデス山麓が原産だと考えられている。わが国へは安土桃山時代に伝えられた。【58】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トウモロコシ					●							

【花期 5〜6月】

トガクシショウマ　1996.5.20戸隠

花　1999.5.12戸隠

葉　1996.5.20戸隠

咲き始め　1999.5.12戸隠

トガクシショウマ　戸隠升麻　別名トガクシソウ〈メギ科トガクシショウマ属〉

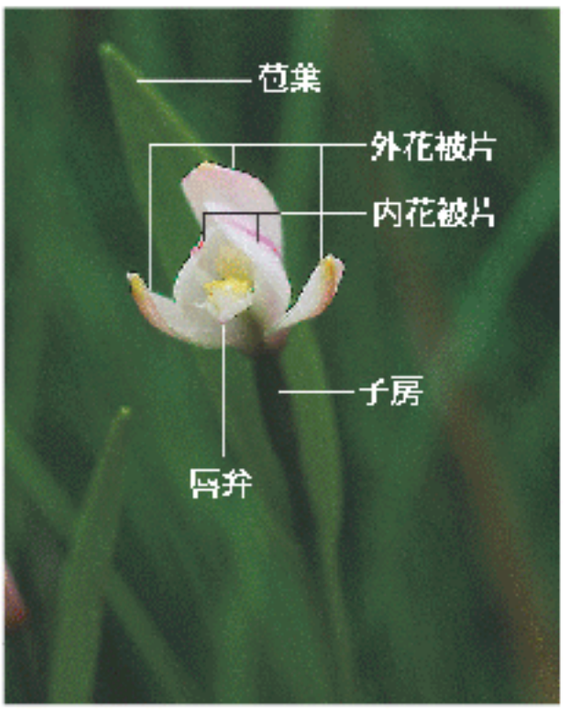
深山の林内に生える多年草。高さ30cm。茎の先に3出複葉が対生。小葉は卵円形、長さ幅とも8〜12cm、粗い欠刻状鋸歯。春、散形花序に淡紫色の花。直径2〜3cm。萼片6枚は花弁状。【1】【3】【18】

■名は、長野県戸隠山で初めて採取されたから。【3】【18】
■学名Ranzania japonicaは、江戸時代の本草学者小野蘭山に因む。【3】
■古くは長野師範学校の校章、現在は信州大学付属長野中学校の校章が、この花をデザインしたもの。【43】
●戸隠森林植物園で撮影したこの株は、心無き者により2000年、盗掘された。

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トガクシショウマ			●	●								

【花期 5〜7月】

花　2003.7.4親海湿原



—.7.23木島平

トキソウ　2004.7.7白馬・五竜

トキソウ　朱鷺草〈ラン科トキソウ属〉

日当たりのよい野原の湿地に生える多年草。茎は直立。高さ10〜30cm。葉は茎の中ごろに1個、披針形または長楕円形。茎の先に紅紫色の花を1個開く、長さ2cm内外、外花被片3個、内花被片2個、唇弁3中裂。花の下の苞葉は、小さな葉のように見え、子房よりやや長い。【3】【15】【18】【32】【42】

■名は、花の色をトキ（朱鷺）の羽のトキ色になぞったもの。【18】
■ヤマトキソウ（山朱鷺草）は、日当たりのよい低山の草原や高原の湿地に生え、花は淡紫紅色。ほとんど開かない。唇弁は内花被片と同長。【3】【15】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トキソウ												

【花期 4〜5月】

トキワイカリソウ　　2003.5.16戸隠

トキワイカリソウ　常盤錨草・常盤碇草〈メギ科イカリソウ属〉

北陸から山陰にかけての日本海側の林下に多い多年草。高さ20〜60cm。葉は2回3出複葉。小葉は卵形または狭卵形、長さ5〜12cm、先端は細く尖り、ふちに刺状の毛、葉質は厚い膜質、冬も枯れない。総状花序。花は白色か紅紫色。花径3〜4cm。【3】【18】【32】【42】

■名は、葉が常緑であるから。【18】
■常盤＝常緑樹の葉がいつもその色を変えないこと。【5】
■北陸地方では白花が多く、福井県以西では紅紫色が多い。【3】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トキワイカリソウ		○	○									

【花期 12〜3月】

木漏れ日が当るような弱い日差しを好む【77】　2019.12.24長野

ビリムラ・オブコニカ　2019.12.24長野

プリムラ・オブコニカ 別名トキワザクラ〈サクラソウ科サクラソウ属〉

中国西部原産のサクラソウ。多年草。高さ20〜30cm。花茎を長くのばし、先に数輪〜十数輪の花をつける、花径は3〜5cm。野生種の花色は淡いピンク、園芸品種には白、オレンジ、濃紫〜淡紫、白く縁取りされるものなどがある。【58】【77】【114】

- 学名 Primula obconica。【58】
- イギリス人が1879年に中国・湖北省で発見。その後、ヨーロッパに渡り、改良が行われた。【77】
- 触ると被れることがある、プリミンという物質を茎や葉の細毛から分泌するので注意が必要。最近ではプリミンを含まない品種が多くなっている。【58】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
プリムラ・オブコニカ												●

【花期 4〜10月】

トキワハゼ　花期は春〜秋、乾地に多い【32】　2006.6.24新潟・糸魚川

花　上唇は浅く2裂、下唇は3裂【42】

2002.4.8長野（左）／2003.10.29長野

花・葉　2002.9.1軽井沢

果実　さく果【42】　2006.6.24糸魚川

トキワハゼ　常磐ハゼ〈ハエドクソウ科サギゴケ属〉

庭先や道端に生える1年草。茎は根際の葉の間から数本立ち、高さ5〜25cm。ムラサキサギゴケに似るが、匍匐枝を出さない。葉は根際で対生、大きい、上部で互生、小さい、倒卵形、ふちに浅い鋸歯。総状花序に唇形花を疎らにつける、萼片5個、花冠10〜12mm、上唇紫色、下唇はわずかに紫を帯びた白色。【3】【18】【32】【42】

■名は、春から晩秋までいつでも花を開いているから。【18】■ときわ（常磐・常盤）＝常緑樹の葉がいつもその色を変えないこと。また、その様。【5】■ハゼは実が「はぜる」ことから生まれた名と言う。【32】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トキワハゼ		●	●	●	●		●	●				

【花期 2〜5月】常緑低木

トキワヒメハギ　高山植物【78】　2010.6.17白馬五竜高山植物園

トキワヒメハギ 常盤姫萩 〈ヒメハギ科ヒメハギ属〉

ヨーロッパアルプス原産。高さ10〜15cm。葉は互生、楕円形〜披針形、皮質、光沢がある。花は葉腋につく、蝶形花、桃色と黄色の複合または白色と黄色の複合、径1〜1.5cm。【58】【78】【114】

■学名Polygala chamaebuxus（ポリガラ・カマエブクスス）。【58】【114】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トキワヒメハギ												

【花期 4～5月】常緑小高木

ベニバナトキワマンサク　2016.4.24長野

トキワマンサク　2016.4.24長野

トキワマンサク 常盤満作 〈マンサク科トキワマンサク属〉

全体に星状毛がある。高さ5～8m。葉は互生、卵形～卵状長楕円形、長さ2～4cm、暗い緑色。枝先から短い花柄を出す。花は6～8個集まって咲く、花弁4個、細長い線形、長さ約1.5cm、淡いクリーム色、雄しべ4個、短い。果実はさく果、卵球形、熟すと2裂し、光沢のある黒い種子を2個出す。【4】【18】【37】【58】

■名は、マンサクに似て、常緑であるから。【18】
■ベニバナトキワンサクはトキワンサクの変種の紅花品種。春に、鮮紅色で光沢のあるビニールの細紐状の花を集合させて咲かせる。【78】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トキワマンサク		○						●				

トクサ　2007.8.29八坂

胞子嚢　2010.7.5長野

トクサ　木賊・砥草〈トクサ科トクサ属〉

山地の沢沿いや湿った日陰に生える常緑、多年生のシダ植物。観賞用としても植えられる。高さ0.6～1m。地下茎は横に這う。地上茎は直立、円柱形、中空、濃い緑色、節から枝は出ない、節部分に黒い鞘状の葉。夏、茎の先端に楕円状の胞子嚢をつける、長さ0.6～1cm。【5】【10】【18】【58】

■名は、砥石代用の草の意。【18】
■茎に多量の珪酸を含むので硬くざらついており、物を磨くのに使用。【5】
■漢方では木賊（もくぞく）と呼ばれ、止血や解熱剤として使われるようだ。【58】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トクサ												

【花期 6～8月】

ドクゼリ　鋸歯をルーペで見るとへりに小点状の透明な細胞が並ぶ【32】　2003.7.13白馬

咲き始め　2003.7.4白馬

茎　太く中空【32】　2000.8.11鬼無里

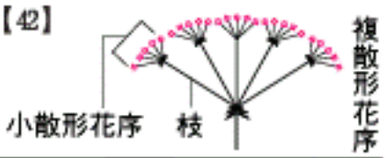
花　丸くなる【3】　2003.7.13白馬

果実　球形に近い【32】　2000.9.4鬼無里

ドクゼリ　毒芹　別名オオゼリ〈セリ科ドクゼリ属〉

湿地に生える有毒の多年草。地下茎は太く緑色、タケノコの節のようにはっきりした節がある。茎は中空、高さ90～100cm。葉は互生、2～3回3出複葉、小葉は披針形～長楕円状披針形、長さ3～8cm、ふちに鋸歯。枝先に複散形花序、花序の枝は20個内外、小散形花序に白色の小花を10～20個。【3】【18】【32】【42】

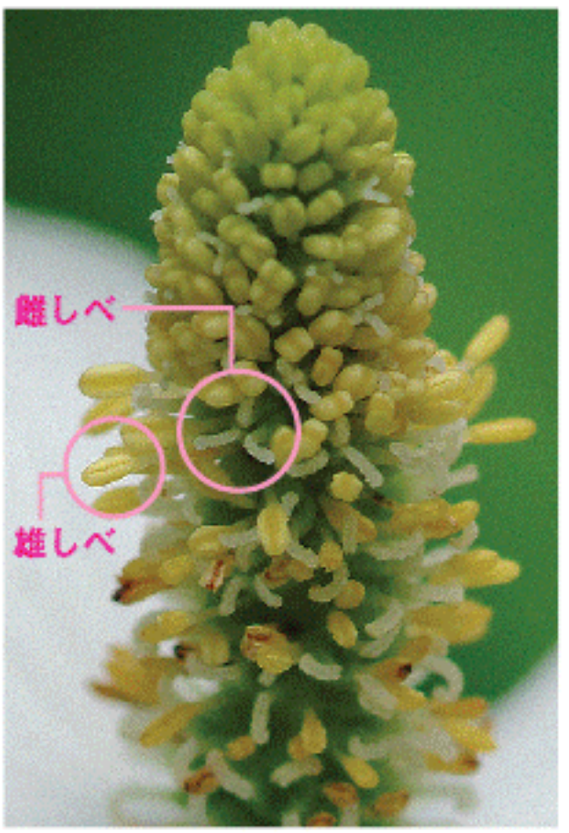
■名は、セリに似るが、有毒であるため。【18】
■地下茎や根にシクトクシン（猛毒）を多く含む。【3】



花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ドクゼリ												

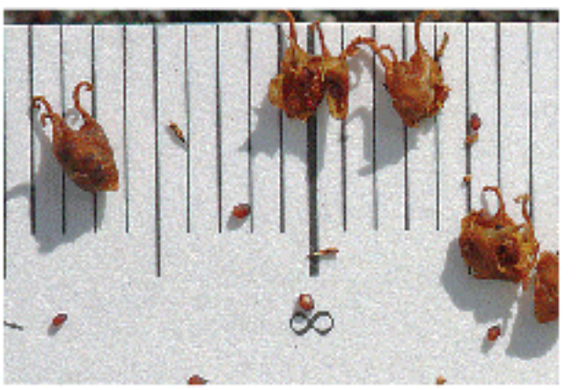
【花期 6〜8月】

ドクダミ　雄しべに花粉はできず、花粉に関係なく種子ができる。単為生殖【10】



花穂　2003.7.13白馬

紅葉　2002.11.6野沢温泉



裂けた果実・種子　1目盛は1mm

ドクダミ　蕺草　別名ジュウヤク〈ドクダミ科ドクダミ属〉

山野の日陰に生える多年草。特有の臭気あり。茎は直立、高さ15〜50cm。葉は互生、卵状心臓形、先は尖る、葉柄の基部に大きな托葉が合生。花は集合花、花被はない、雄しべ3個、雌しべ1個、子房上位、花柱3個、花穂の下に総苞片4個、白色、花弁状。果実はさく果、球形、裂けて微細な種子を吐く。【3】【10】【18】【25】【32】【42】

■名は、毒痛みの意であろうという。【18】■薬用にすることから、毒痛みまたは毒矯(た)めの語からの変化かといわれる。【2】■矯の字義は改め、直すこと。【25】■別名ジュウヤクは、馬に用いると10種の薬効があるからだという。【10】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ドクダミ												

【花期 6～8月】

ドクムギ　小穂　　2014.6.20長野

葉　　2014.6.20長野

ドクムギ 毒麦 〈イネ科ドクムギ属〉

明治時代に牧草として輸入され、現在は各地の道端や田の畦などに野生化している1～2年草。根元から茎を直立，株立ち。高さ30～80cm。葉は細長い、長さ40～60cm、幅3～10mm、小さい葉耳と高さ1～2mmの葉舌がある。穂は直立、分枝しない。小穂には5～10個の小花、第2包穎は長く、小穂とほぼ同長かやや短い、小花は目立って両面に膨らみ、芒がある。【32】【ウィキペディア】

■名は、果実に寄生虫がつきやすく、家畜を中毒させるので。【32】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
ドクムギ				●								

【花期 7〜8月】

トケイソウ　花は朝開き、ほぼ1日で閉じる【59】　2011.8.15立科

トケイソウ　時計草〈トケイソウ科トケイソウ属〉

ブラジル・ペルー原産。江戸時代に渡来。観賞用に栽培される蔓性の多年草。巻きひげで他のものに絡みつく。長さ4m位。葉は互生、常緑、掌状に5深裂、裂片は披針形、先は丸い、葉柄の基部には托葉がある。花は径8〜10cm。果実は液果。【5】【18】【58】【59】

■名は、花の形が時計の文字盤に見えるので。【58】

■属名はパッシフローラ（Passiflora）で、キリストが十字架上で受けた5つの傷を花が具象とするとした受難の花を意味する。【25】

■雄しべの葯は太い花糸の先につくが、固定されておらず、回転する。花が咲いた直後に裂開し、花粉のある面を上に向ける。その後、回転して下を向いてしまう。【59】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トケイソウ						○						

花　葯は紅色【58】　2004.4.1長野

葉　2002.5.9長野

トサミズキ　葉裏や葉柄、花軸、萼には毛が多い【58】　2004.4.25軽井沢町植物園

トサミズキ 土佐水木 〈マンサク科トサミズキ属〉

高知県内の蛇紋岩や石灰岩地帯に自生。庭木や花材として植栽。高さ2〜4m。葉は互生、卵円形〜倒卵状円形、長さ5〜10cm、基部は円形、ふちに波状の鋸歯、表面無毛、皺がある、裏面に軟毛。葉に先立って穂状花序を垂らし、淡黄色の花を7〜8個つける、萼5個、花弁5個、雄しべ5個、花柱は花弁より長い。果実はさく果、熟すと2裂して、光沢のある種子を2個出す。【4】【18】【37】【58】

■名は、土佐(高知県)から出たミズキ。【18】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トサミズキ	●	●										

トチノキ　1999.6.6鬼無里

花　2000.6.8鬼無里

紅葉　2003.10.11戸隠

果実・種子　2001.9.13戸隠

トチノキ　橡木・栃木　〈ムクロジ科(トチノキ科)トチノキ属〉

山地に生え、大きなものは高さ35mになる。葉は対生、大形の掌状複葉、小葉5〜7個、倒卵状長楕円形、長さ15〜40cm、ふちに鈍い重鋸歯、裏面に淡緑色の軟毛。大きな円錐花序を直立し、白色で紅斑のある花、花弁4個、雄しべ7個。果実はさく果。丸い。熟すと3つに裂け、光沢がある赤褐色の種子を出す。[4][5][18][37]

■トチの名の意味は明らかでない。[2] ■縄文人の食生活を支えた種子は、その後も明治以前まで山里の人々の凶作、飢饉に備える保存食として長く貢献した。水に晒して、強い渋を抜く。手間はかかるが、味は捨てがたい。[25]

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トチノキ												

【花期 6〜8月】

トチバニンジン　萼5個、花弁5個、雄しべ5個【42】　1998.7.14鬼無里

花　径3mmほど【32】　2015.7.26戸隠

葉　1999.6.6鬼無里

実　径5mm【32】　2003.9.15戸隠

トチバニンジン 栃葉人参 〈ウコギ科トチバニンジン属〉

山地の林下に生える多年草。根茎は地中を横に這い、節がある。茎は単一で根茎の先端から直立。高さ50〜60cm。葉は茎先に輪生、長柄、掌状複葉、小葉は5個、倒卵形、ふちに鋸歯。茎先に長い花柄を出し、散形花序に淡黄緑色の小花を球状につける。果実は核果、球形、赤く熟す 。【3】【5】【18】【32】【42】

■名は、葉の形がトチノキの葉形と似て、地上部がチョウセンニンジン（朝鮮人参）によく似ているから。【2】【18】

■根茎は漢方で竹節人参（チクゼツニンジン）と言い、朝鮮人参の代用にする。【5】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トチバニンジン												

【花期 4～6月】常緑低木・小高木

トベラ　　2018.5.27長野

トベラ　扉・海桐花〈トベラ科トベラ属〉

海岸に生え、庭や生垣などに植栽する。高さ2～3m。枝や葉、根に臭気。葉は枝の上部に密に互生、長楕円形、長さ5～10cm、革質、光沢がある、ふちは全縁。雌雄異株。集散花序を出す。花は萼片5個、花弁5個、径約2cm、白色、後に黄色。果実はさく果、球形、径1～1.5cm、3裂する。種子は赤い、粘る。【4】【18】【37】【59】【72】

■名は、節分に扉にはさみ、鬼を除ける行事に由来。【18】
■葉に〝鬼の目をつく〟鋸歯はないが、葉を火にくべればはぜて燃える。その音と臭気で、ヒイラギと同じく鬼を祓ったのだろうか。【25】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トベラ			○									

【花期 7〜8月】

花　枝の節から花枝を出す【58】　2017.7.28長野

トマト　2017.7.28長野

トマト ―― 〈ナス科トマト属〉

メキシコあるいはペルーが原産だといわれる一年草。わが国へは17世紀に渡来。当初観賞用、明治後期に野菜として栽培されるようになった。高さ2〜3m。全体に細かい毛がある、葉は互生、羽状複葉、小葉に鋸歯。花冠は径2cm位、黄色。果実は径5〜10cm。品種により様々あり、一年中出回る。【18】【58】【84】

■名は、英名Tomatoから。【18】
■フランスでは「愛のリンゴ」、ドイツでは「天国のリンゴ」と呼ばれている。【18】
■果実は球形や扁球形の液果で、開花後35〜50日で赤や橙黄色に熟す。【84】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トマト					●							

【花期 8〜9月】

トモエシオガマ　　2003.8.13霧ヶ峰

花　　2003.8.13霧ヶ峰

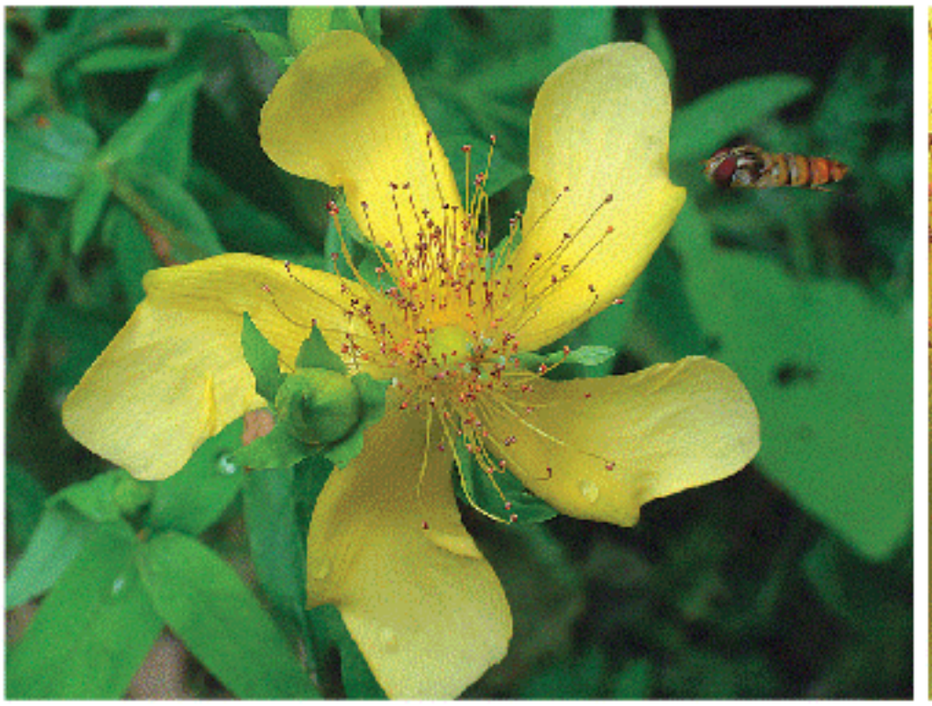
トモエシオガマ　巴塩竈　〈ハマウツボ科シオガマギク属〉

シオガマギクの変種で、多年草。花が先端に集まって巴形に咲く特徴がある。茎は直立、高さ25〜60cm。葉は互生。茎の上部に花をつける、花冠は淡紅色〜紅紫色、筒形になり、先端が丸くなる。【3】【33】

■名は、花が巴形に輪生することから。【33】
■上高地では、湿生林と路傍の草地に散生する。【33】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トモエシオガマ												

【花期 7〜9月】



トモエソウ 花弁はねじれる。花柱５裂　2002.7.24蓼科

花　2002.7.24蓼科

果実　2001.8.26軽井沢

茎と花　2002.7.24蓼科

トモエソウ　巴草〈オトギリソウ科オトギリソウ属〉

日当たりのよい山地や草原のやや湿ったところに生える多年草。茎は直立、高さ50〜130cm、4稜。葉は対生、披針形、長さ5〜8cm、基部は無柄で茎を抱き、先端は尖る、透明点が疎らにあり全縁。花は淡黄色、径4〜6cm、日光を受けて開き1日花、花弁5個は巴状にねじれる、雄しべ多数、雌しべ1個、花柱5裂、子房は長さ7mm、花柱も同長。果実はさく果。[3][7][10][18][32][42]

■名は、花弁が巴状になっているため。[18]　=左三つ巴

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トモエソウ					●							

【花期 ――月】

トモエニシキ　　2015.11.4須坂

菊花展　　2015.11.4須坂

トモエニシキ 巴錦 〈キク科キク属 〉

■昔、加賀のお殿様が参勤交代の途次、信州小布施に立ち寄られ、そこに飾られていた菊をたいそうお気に召して名を尋ねた。が、誰も答えられなかったので、殿様は「これよりは巴錦（ともえにしき）と呼ぶように」と命名された。このため地元の人々はこの菊を「殿様菊」と呼ぶようになった。【98】

■巴錦は葛飾北斎も好んだ菊だったらしく、北斎筆といわれている絵の中に、確かにこの菊と思われる花が描かれている。このことから130年以上の寿命を保っていることが推定される。【98】

■長寿を保った巴錦もさすがに老化がみられ、さし芽をしても発根しにくく、育てにくいという栽培者の苦労があったので、平成11年、茎頂培養が行われ、ウイルスフリー苗が作られた。その結果、発芽しやすく育てやすい菊に戻り、名前も「北斎巴錦」として品種登録された。【98】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トモエニシキ									●●●			

【花期 6〜10月】

トラデスカンティア・シラモンタナ　2016.10.23塩尻

トラデスカンティア・シラモンタナ ―― 〈ツユクサ科ムラサキツユクサ属〉

メキシコ原産の常緑多年草。全体に白い綿毛で覆われる。蔓性。地面を這って広がる。高さ20〜40cm。葉は互生、卵形、肉厚、基部は茎を抱く。花は茎の先に1〜2個、ローズピンク色、苞は2個。【58】【84】【114】

■学名Tradescantia sillamontana。【58】
■葉に白い綿毛があることから白雪姫という別名がある。【114】
■光線が弱かったり、過湿では綿毛が出ない。【84】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トラデスカンティア・シラモンタナ								●				

【花期 6〜8月】

トリアシショウマ　1998.7.5鬼無里

花　2003.7.13白馬

若芽　●鶏の脚先に似ると、いつも思う

葉　2003.7.13白馬

果実　1999.8.21鬼無里

トリアシショウマ　鳥足升麻〈ユキノシタ科チダケサシ属〉

広義のアカショウマの変種。深山の林内や草原などに生える多年草。高さ60cm位。葉は2〜3回3出複葉、小葉は卵形か長卵形、基部心形、先は尾状に鋭く尖る、ふちに不揃いの重鋸歯。円錐花序に白色で小さい花多数、花序はよく分枝、短毛密生、萼5裂、花弁5個。雄しべ10個、花柱2個。果実はさく果。[3][18][32][42]

■名は、丈夫でまっすぐな茎を鳥の足に例え、草の形が升麻に似るから。[18]
　名は、葉柄の分岐が鳥の足に似ることから。[23]

■升麻＝サラシナショウマの根茎。漢方で解熱、発汗、解毒薬として用いる。[5]

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トリアシショウマ					●	●	●					

【花期 6～10月】

トリトマ　英名はトーチリリー（Torch Lily）【58】　2003.9.5白馬

花　2003.9.5白馬

トリトマ ―― 別名シャグマユリ〈ユリ科シャグマユリ属〉

南アフリカ原産。明治中期に渡来。花壇・生花用に栽培する多年草。葉は根生、線形、長さ60～90cm、ふちに細い鋸歯。花茎は長さ1m位、先に総状花序か穂状花序をつける。花は筒状、長さ2.5～6cm、雄しべ6個、花の色や大きさに変種がある。【18】【58】【61】

■トリトマは旧学名にして、園芸上の一般的呼称。【18】

■別名のシャグマユリ（赤熊百合）は、花序を旗や槍・帽子などの装飾にする赤熊に見立てた。【18】

■ヒメトリトマは高さ60～70cm、葉の長さ36～54cm、葉質硬い、葉裏には鋭い竜骨がある。【18】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トリトマ												

【花期 7～8月】

トルコギキョウ　　2021.8.14

トルコギキョウ ―― 〈リンドウ科トルコギキョウ属〉

アメリカのテキサスやネブラスカ原産。昭和10年に渡来。切り花用に栽培され園芸上の一年草。茎は細く直立。高さ30～60cm。葉は対生。花はカップ状で切れ込む。500を超える品種の7割は日本の品種が占める。花色は淡い紫色で中心が濃い紫色、白色、桃色など。八重咲き、フリル咲き、バラ咲きと花型も多彩。【18】【25】

■名は、キキョウに似るから。【18】■トルコとは無縁。【25】
■学名 Eustoma（ユーストマ）。【ウィキペディア】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トルコギキョウ						●						

【花期 5〜10月】

2015.7.4長野

2015.7.4長野

トレニア　　2015.7.4長野

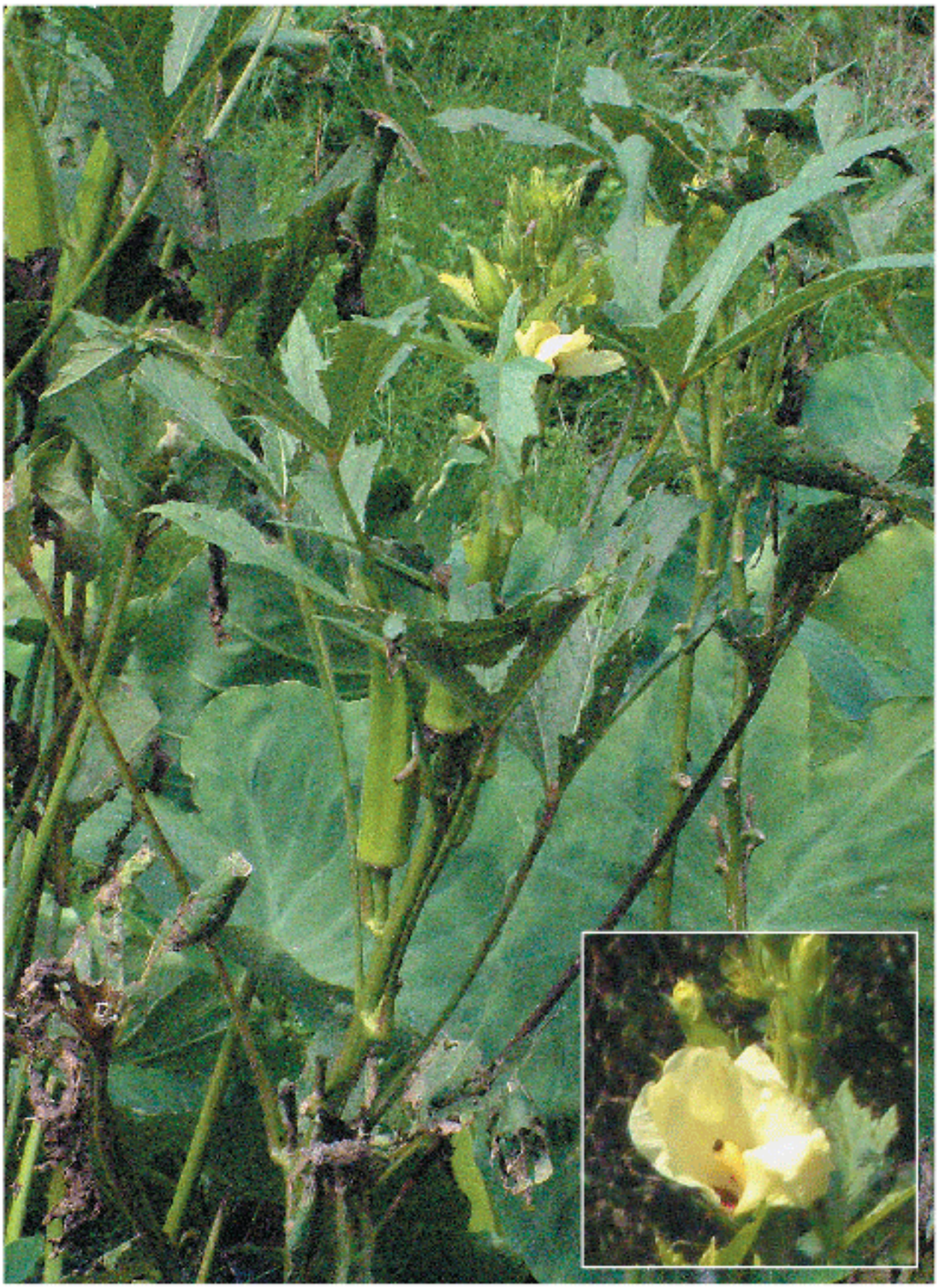
トレニア ―― 〈アゼナ科トレニア属〉

インドシナ半島原産。鉢植えに栽培される春蒔き一年草。全株に軟毛を密生。茎は立ち上がるか匍匐する。高さ20〜30cm。葉は対生、卵形〜披針形、長さ3cm、ふちに鋸歯。花は唇形花、上唇2裂、下唇3裂、中央基部に黄斑、柱頭2裂、虫が触れると数秒で閉じ、受粉。【18】【25】【58】【84】

■名は、スウェーデンの牧師トレーンに因む。【77】
■別名ハナウリクサ（花瓜草）、ナツスミレ（夏菫）。【58】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トレニア			●	●	●	●	●	●	●			

【花期 7～10月】



トロロアオイ　果実と花（右下）　2002.10.2／10:45小谷

トロロアオイ　黄蜀葵〈アオイ科フヨウ属〉

東アジア原産。薬用、観賞用、手漉き和紙の糊料として栽培される1年草。茎は1本直立、高さ1～2m。葉は互生、有柄、掌状に5～7深裂、有毛。花は横向き、径10～15cm、花弁5個、淡黄色、花柱5裂、1日花、茎の下の方から上へ順に咲く。【5】【18】

■名は、根に粘液を多く含み、製紙用の糊に用いるが、これをトロロに例えた名。【18】■とろろ＝トロロイモ（ヤマノイモ、ツクネイモ、ナガイモなど）の略。とろろ汁の略。【5】■漢名は黄蜀葵（おうしょっき）。【25】

■漢方で根を鎮咳薬、健胃薬とする。【5】

花撮影月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
トロロアオイ												